

寄せられた感想（令和3年度実施分から抜粋）

◆被爆体験証言講話

○吹田市立藤白台小学校（大阪府）

令和3年12月9日 120名

被爆者ご本人の幼少期、被爆前の暮らしについてもお話いただきました。子どもたちは「広島・原爆」と聞くと、これまでは被爆後の事だけを考えていたようでしたが、今回の講話では、戦時中の日本がどのような生活をしていたのかを学ぶことができました。プレゼンテーションソフトを用いて、場所や被爆後の様子をお話いただき、資料の量もちょうどよく、子どもたちは集中してお話を聞くことができました。時系列に沿って、子どもたちが学んできた内容も確認しながら語っていただいたので、とても分かりやすかったです。



○米原市立米原中学校（滋賀県）

令和3年12月10日 179名

しっかりとのお話しぶりで、大変分かりやすかったです。中学生にも理解できる言葉で被爆の実相・真実をしっかりとお伝えいただきました。生徒からの質問にもとても詳しく、丁寧にお答えいただき、時間があればもっとお聞きしたいことがたくさんあったと多くの生徒が話していました。被爆者ご本人のお話を直接お聞きすることで大変勉強になり、平和を構築していくのは自分たち一人ひとりであることを教えていただきました。



○川西市立清和台小学校（兵庫県）

令和3年12月16日 56名

心にぐっとくる、子どもたちにも私たち大人にもしっかりと伝わる語り口調でした。お元気で、大きく、よく通る、張りのあるお声でした。つらく、忘れてしまいたい体験であるにもかかわらず、常に笑顔で語ってくださいました。また、子どもたちの質問にも真摯にお答えくださったことが、胸に響き、そのお人柄に涙が出ました。



○三田市立高平小学校（兵庫県）

令和3年12月16日 40名

例年は、修学旅行で広島に行きますが、今年は新型コロナウイルスの影響で行き先が変更になりました。現地には行けませんでした。が、「生の声」を聴くことで子どもたちはもちろん、教員である私自身も大変勉強させていただきました。また、学校では4月から平和学習を進めてきたため、これまで学習してきたことと、今回のお話とが、子どもたちの中でつながったように感じました。証言者の方は、子どもたちの心に伝わるよう、被爆当時の実際のやり取りの再現なども織り交ぜながら話してくださいました。子どもたちからは、「本当に恐ろしいことだと感じた」、「平和への思いを考え続けたい」などの声が上がりました。



◆被爆体験伝承講話

○安来市立能義小学校（島根県）

令和3年7月13日 15名

講話終了後、子どもたちは感想交流と、自分たちで今日からできることについての意見交流をしました。
今学校で勉強できる幸せを感じた、二度とこんな思いをすることがないように原爆・戦争をなくしたい、差別のない世界にしたい、仲良く協力する世界を作りたいなど、子どもたちから意見が出ました。これをきっかけとして、さらに考えを深め、平和について子どもたちと考え、実践していきたいです。



○平生町立平生中学校（山口県）

令和3年7月13日 93名

聴きやすい声の大きさと速さで、情景を思い描きながらお話しされていることがよく伝わり、お話にとっても引き込まれました。講話後の質疑応答で、生徒たちの質問にも丁寧に答えていただき、戦争を二度としてはいけないこと、人間は原爆と共存できないこと、今の平和な生活を守るためには、一人ひとりの正しい判断と行動が大切であることを学びました。



○北見市立北中学校（北海道）

令和3年7月13日 405名

生徒たちは戦争がどれだけ悲惨なものか、核兵器がどれだけ危険なものなのかを理解することができました。被爆者の方とそのご家族との会話を再現される際には、標準語ではなく広島弁でお話しして下さったり、講話中にプレゼンテーションソフトで当時の写真や絵を見せて下さったりしたので、よりイメージを膨らませて聴くことができました。



○八尾市立高美中学校（大阪府）

令和3年11月17日 93名

原爆がなぜ落とされたのか、それまでの背景をわかりやすく端的に、講話の内容ごとに短く分けてお話ししてくださったので、生徒たちは理解しやすく、飽きずに聞くことができました。伝承された内容ではあるものの、実際の被爆地広島で見聞きされたことは、とてもリアルに感じました。



○静岡県立金谷高等学校（静岡県）

令和3年11月17日 37名

講話中、お話を伺いながら一生懸命メモを取り、聞き逃さないようにする生徒たちの姿勢に、学びに対し積極的な姿を見ることができました。特に、「一人ひとりの力は微力だができることがある」という言葉は強い印象を残し、多くの生徒が、選挙に行ったりして自分のできる行動をしたいと言い、とても頼もしく感じました。



○岐阜市立木田小学校（岐阜県）

令和3年12月2日 41名

被爆者の思いや感情を正確に伝えてくださることで、子どもたちは感情移入しやすくなっていました。よりリアルな体験として子どもたちに伝わっているように感じました。被爆のけがによる差別や被爆後の生活についても話ししていただいたことで、子どもたちは自分の生活と比べながら考えることができました。子どもたちにとって原爆がただ「怖い」で終わらず、「戦争」「原爆」「差別」などさまざまなことに対して考えさせられる内容でした。



◆被爆体験記朗読会

○交野市立藤が尾小学校（大阪府）

令和3年10月7日 41名

導入としてDVDを見て被爆状況を知ることができたので、その後に朗読をしてくださった体験記や詩の状況がつかみやすく、また、体験記と詩の補足説明もあったので、初めて聞く子どもたちにとってとても分かりやすかったです。朗読の際には、当時の悲慘な状況がひしひしと伝わってくる語り口調で非常に良かったです。体験記を聞いた後に、子どもが実際に読んでみるのも、子どもたちにとって平和学習を深める良い機会となりました。



○琴平町立琴平小学校（香川県）

令和3年11月11日 26名

被爆者を親族にもつ方々の生の話や、実際の体験をまとめた体験記を聞くことで、児童は自分たちが学習してきたことをより一層深めることができました。丁寧な解説を交え、児童が「自分たちも朗読したい」という意欲を高められるように語りかけてくださったので、多くの児童が朗読したいと挙手しました。今回の朗読会は、児童にとって非常に大きな経験になり、インターネットの情報よりも重みのある、生の声を聞くことの大切さを改めてかみしめることができました。

